

**公益財団法人横須賀芸術文化財団**  
**平成 27 年度第 2 回評議員会**  
**議 事 録**

- 1 開催日時** 平成 27 年 6 月 30 日（火）10 時 30 分から 11 時 35 分まで
- 2 開催場所** 横須賀芸術劇場 大劇場 楽屋 8
- 3 出席者** 評議員総数 5 名  
出席評議員 5 名  
上田滋、岡朋子、上条浩、菊池匡文、下里矩生  
出席理事 1 名  
原田恵次（業務執行理事・常務理事）

**4 議長** 菊池匡文

**5 決議及び承認事項**

議案第 2 号 平成 26 年度事業報告及び決算について

議案第 3 号 役員及び評議員の任期満了に伴う選任について

**6 報告事項**

- ・平成 26 年度第 3 回理事会以降における理事会の決議事項について
- ・平成 26 年 7 月 1 日以降の職務の執行状況について
- ・「第 16 回世界オペラ歌唱コンクール『新しい声 2015』オーディション in YOKOSUKA」の開催結果について
- ・「ジャック・ランソロ国際クラリネット・コンクール Japan」次回開催について

**7 議事の経過概要及びその結果**

定刻に出席評議員全員の着席を確認し、天沼業務部長が開会を宣言。

定款第 18 条の規定に基づき、出席した評議員の互選により菊池評議員が議長に選出され、併せて、定款第 22 条第 2 項の規定に基づく議事録署名人となった。

菊池評議員が、定款第 19 条第 1 項に規定する定足数を満たしていることを確認し、本評議員会が有効に成立した旨を宣言。

菊池評議員が各議案を上程し、事務局に説明を指示し、議案の審議に入った。

**(1) 議案第 2 号 平成 26 年度事業報告及び決算について**

大倉事業課長（事業報告）及び柳田管理課長（決算）が詳細を説明。

説明によると、平成 26 年度は、横須賀芸術劇場と横須賀市立ベイスクエア・パーキングの新たな指定管理期間 8 年間の 1 年目にあるとともに、開館 20 周年という記念すべき年であり、周年事業を加え、横須賀の芸術文化の創造及び発展並びに文化的な潤いのある地域社会の実現のため、各事業に取り組んだ。自主公演事業については多様なジャンルの公演を鑑賞できる環境を整え、周年記念事業としても一流の舞台芸術を多数提供し、より多くの人々が舞台芸術に親しめるよう、自主公演 39 公演へ市民 2,847 名を無料で招待した。育成事業については、若手演奏家の育成のため、新規に器楽の国際コンクールを共同開催し強化を図ったほか、

劇場専属合唱団の運営などを通じ、市民の文化活動への参加を促進した。施設管理事業については、情報提供と営業活動により利用促進を図り、また、修繕による使用環境の改善と適格なサービスにより、より利用しやすい施設の維持に努めた。その他事業全般において、地域に親しまれる劇場として地域の活性化及び芸術文化の振興に寄与した。なお、平成27年3月には、横須賀芸術劇場の公演来場者数が500万人を達成した。

決算額については、収入、支出ともに対予算現額で減額となったため、全体として収支差が抑制され、かつ適正な公益目的事業比率を確保した。また、周年記念事業の実施に伴う公演経費の増額に備え、舞台・音楽芸術普及特定資産の一部取崩しを行うなど財源確保に努めた。

続いて、伊藤、山寄両監事が平成26年度における理事の職務の執行について監査した結果、事業報告は法令及び定款に従い法人の状況を正しく示していること、理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められないこと、内部管理体制の整備に関する理事会決議及びその体制下の理事の職務の執行が相当であること、計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は法人の財産及び損益の状況をすべて重要な点において適正に表示していることがそれぞれ認められた旨報告された。

本議案に関連し、次の質疑応答があった。

- ・上田評議員：「横須賀芸術劇場ニュース」発行について、費用対効果は検証しているか。
- ・大倉事業課長：毎年度、チケット販売の動向を分析し、配布エリアを決定している。現在は、主にポスティングにより各世帯宛て配布しており、新聞折込みを中心に配布していた頃と比べ、発行費用は低減されている。開館以来、継続発行している中、依然として紙媒体によるニーズが高いと考えている。
- ・上田評議員：インターネットを活用した広報活動について、調査・研究を進めてもらいたい。
- ・上条評議員：若年層は、紙媒体よりインターネットから多くの情報を得ている。効率性を考え、様々な選択肢の中から検討してもらいたい。
- ・原田常務理事：紙媒体の効果、若年層向けの情報提供等、効率的な方法は何かを検討し、広報活動に反映していきたい。
- ・上田評議員：駐車場事業の収支差は、財団の収益だと考えて良いか。
- ・柳田管理課長：財団の収益事業の一つであり、その差額は収益となる。
- ・上田評議員：施設の躯体部分の修繕負担は横須賀市ということだが、常に多額の修繕や寄附を実施できるとは限らない。横須賀市とは、負担割合を明確にしておいた方が良い。
- ・菊池評議員：駐車場事業の賃借料支出など、不要額が生まれることは良いが、安全性が低下することがないよう心がけてもらいたい。

- ・上条評議員：チケット収入が減少した理由として市民無料招待、景気低迷等が挙げられていたが、過去数年間の傾向判断を行うなど、今後の運営に活かしてもらいたい。
- ・菊池評議員：より詳細な説明となるよう努めていただきたい。
- ・下里評議員：横須賀芸術劇場は、開館以来、周辺地域の芸術文化の発展に大きく寄与してきた。設備も優れており、より稼働率を上げ、多くの方に利用いただけるよう努めてもらいたい。

以上、菊池評議員が諮った結果、全員一致をもって原案のとおり承認された。

## (2) 議案第3号 役員及び評議員の任期満了に伴う選任について

大倉事業課長が詳細を説明。

現在の役員及び評議員は、本評議員会の終了をもって任期満了を迎える。平成27年度第2回理事会（平成27年6月15日に開催）議案第5号において次のとおり後任の候補者が選出されたため、それぞれ選任したい旨説明。

併せて、岡評議員から任期満了を機に退任したい旨申し出があり、長澤典子氏をその後任候補者とする旨、すべての候補者については、本評議員会において選任された場合に即時就任する旨の承諾を得ている旨説明。

<理事>

再任：小澤一彦氏、木村忠昭氏、齋藤道子氏、竹内英樹氏、原田恵次氏、  
渡辺晴夫氏

<監事>

再任：伊藤智則氏、山寄進康氏

<評議員>

再任：上田滋氏、上条浩氏、菊池匡文氏、下里矩生氏

新任：長澤典子氏

評議員から質疑がなされなかったことから、菊池評議員が各候補者について個別に諮った結果、すべての候補者について、全員一致をもって原案のとおり承認された。（すべての被選任者は、即時就任した。）

## (2) 報告事項

報告事項については、天沼業務部長が一括して説明した。

### ・平成26年度第3回理事会以降における理事会の決議事項について

#### （平成26年度第3回理事会について）

説明によると、議案第6号については、当財団の公益目的事業についてご賛同いただける個人や法人からの寄附を広く募集したく、寄附金取扱規程を平成27年4月1日付け施行した。

なお、議案第7号については、平成27年3月にその議案と概要説明資料を評議員宛て送付しているため、説明が省略された。

#### （平成27年度第1回理事会について）

議案第1号及び第2号については、理事の改選に関することであり、その後

に同様の議案により評議員会（決議の省略）を開催したため、説明が省略された。

#### （平成 27 年度第 2 回理事会について）

説明によると、議案第 4 号については、平成 27 年度資金収支予算書の前期繰越収支差額を平成 26 年度収支計算書の次期繰越収支差額と一致させるため、補正資金収支予算を編成した。

議案第 7 号については、チケット予約システムの刷新と劇場友の会のリニューアルにあたり、現行のインターネットチケット販売利用規約を平成 27 年 6 月 30 日限りで廃止する。

なお、議案第 3 号、第 5 号及び第 6 号については、本評議員会の議案と重複するため、説明が省略された。

#### ・平成 26 年 7 月 1 日以降の職務の執行状況について

芸術劇場指定管理業務に係る横須賀市宛て月次及び年次報告を行ったことなどを報告。特に、周年記念事業及び市民無料招待については、横須賀市からも高評価を受けた旨報告された。

#### ・「第 16 回世界オペラ歌唱コンクール『新しい声 2015』オーディション in YOKOSUKA」の開催結果について

説明によると、平成 27 年 5 月 7 日及び 8 日の 2 日間でオーディションを開催した。日本、韓国等から 82 名の応募があり、77 名が出場した。前回のオーディションで横須賀から選出された韓国人歌手が本選で優勝したこともあり、前回の倍以上の韓国人歌手が出場した。結果は、日本人歌手と韓国人歌手のそれぞれ 2 名が本選出場者として選出された。

また、開催に先立ち、4 月 29 日に歴代の優勝者や出場者を招いたオペラ・ガラ・コンサートを開催した。多くの聴衆が集い、若手歌手の支援を行うとともに、コンクールのレベルの高さを広く伝えることができた。

#### ・「ジャック・ランソロ国際クラリネット・コンクール Japan」次回開催について

前回のコンクールが成功裏に終わったことを受け、主催である実行委員会から正式に次回開催に係る打診があった。理事長の内諾を受けており、横須賀市の協力も得られたため、開催に向けた調整を図っていききたい旨報告。

本報告内容について、いずれも評議員に了承された。

以上をもって、議事全部の審議及び報告が終了したので、11 時 35 分、議長が閉会を宣し、解散した。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、議長が記名押印する。

平成 27 年 6 月 30 日

公益財団法人横須賀芸術文化財団

議 長  
評 議 員

菊 池 匡 文

印

本議事録の作成にかかわる職務を行った者の氏名

公益財団法人横須賀芸術文化財団

常務理事（事務局長） 原田恵次

業務部管理課 佐久間陽一